2025年度

北海道社会事業協会帯広病院

臨 床 研 修 プ ロ グ ラ ム

プログラムの目的と特徴

このプログラムは、研修医が医師としての第一歩を踏み出すにあたり、プライマリ・ケアを中心とした基礎的・基本的臨床能力を身につけ、全人的医療を身につけることを目的とする。

帯広・十勝地区における代表的な急性期医療を行う病院として、豊富な臨床症例を経験することにより、充実した卒後初期臨床研修ができるように配慮した。2年間で内科、救急部門・地域医療・外科・小児科・産婦人科・精神科の必修科目（一般外来の研修を含む）、さらに自由選択科目研修（ 消化器内科・循環器内科・総合診療科・腫瘍内科・小児科・外科・整形外科・産婦人科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科・麻酔科・病理診断科 ）においては、研修医個々人がプライマリ・ケアを主眼においた自由なローテーションの選択を可能にした個別選択プログラムである。

施設の沿革と概要

1.病院の沿革

当法人は大正11年7月、昭和天皇(当時　皇太子殿下)がご来道の折、社会福祉振興のためご下賜された五千円を基とし、財団法人北海道社会事業協会として発足し、昭和12年12月附属帯広病院を開設しました。
昭和27年5月法の施行により社会福祉法人に組織変更を行い、昭和31年に公的医療機関の指定を受け、開設以来、幾多の増床、診療科新設を行い昭和38年10月には総合病院として認可され、平成11年4月に移転新築し現在の帯広協会病院にいたっています。
その後、平成12年3月には十勝二次保健医療福祉圏の地域センター病院として指定、平成13年10月には地域周産期母子医療センターとして認定を受け、帯広、十勝圏域の基幹病院としてその役割を担っています
また、急性期病院として、常に高度医療に対応する最新鋭の医療機器を導入し機能の充実に努めています。
病院所在地はJR帯広駅から徒歩20分に位置しています。

2.病院の概要

(1) 名　　称　　社会福祉法人北海道社会事業協会帯広病院
(略称　帯広協会病院)

(2) 所 在 地　　帯広市東5条南9丁目2番地
TEL　0155-22-6600 (代表)

(3) 面　　積　　敷地面積　　11,922㎡
建物延べ面積　　22,712㎡
(地上9階　・地下1階・塔屋1階)

(4) 病 床 数　　一般300床

(5) 診 療 科　　消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、総合診療科、腫瘍内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、麻酔科、救急科、病理診断科

(6) 職 員 数　　全職員数705名(ﾊﾟｰﾄ含む)（令和　6年　4月　1日現在)

医師　77名
薬剤師　16名
看護師　330名　(保健師、助産師を含む)
医療技術者　107名

各科指導責任者及び指導医（上級医）

令和6年4月現在

		指導医氏名	職名	出身大学	免許取得	
循環器内科	○	吉田　一郎	院長	北大医	平成1年	日本内科学会総合内科専門医　日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医　日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会専門医 指導医講習会修了
		及川　達也	主任部長	弘前大医	平成17年	日本内科学会認定内科医
		西川　幹人	主任部長	弘前大医	平成18年	日本内科学会認定内科医　日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会専門医
消化器内科	○	佐藤　修司	主任部長	札幌医大	平成7年	日本内科学会総合内科専門医・指導医　日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会消化器病専門医・指導医　指導医講習会修了 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医
		伊志嶺　優	主任医長	札幌医大	平成22年	日本内科学会認定内科医　日本消化器病学会専門医
総合診療科	○	堀　哲也	主任部長	旭川医大	平成20年	日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医・指導医 認知症サポート医　指導医講習会修了
		堀　みき	部長	福島医大	平成17年	日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医・指導医 指導医講習会修了
		杉原　伸明	医長	自治医大	平成27年	日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医・プライマリケア認定医 日本専門医機構総合診療専門医・総合診療専門研修特任指導医 指導医講習会修了
		田尻　巧	医長	高知大医	平成29年	
腫瘍内科	○	杉山　絢子	主任部長	旭川医大	平成14年	日本内科学会総合内科専門医　がん薬物療法専門医　指導医講習会修了
小児科	○	青柳　勇人	副院長	東大医	平成3年	日本小児科学会専門医　指導医講習会修了
		松岡　恵	主任医長	群馬大医	平成12年	日本小児科学会専門医　指導医講習会修了
		伊藤　ゆたか	主任医長	岩手医大	平成17年	日本小児科学会専門医
		渡邊　さやか	主任医長	旭川医大	平成22年	日本小児科学会専門医
		木村　修平	主任医長	旭川医大	平成26年	
		遠藤　愛	医長	北大医	平成28年	
外科		阿部　厚憲	名誉院長	杏林大医	昭和59年	日本外科学会専門医　日本消化器外科学会認定医 検診マンモグラフィー読影認定医　指導医講習会修了
		橋本　卓	診療部長	北大医	平成6年	指導医講習会修了
	○	本間　友樹	主任部長	札幌医大	平成19年	日本外科学会専門医　検診マンモグラフィー読影認定医　指導医講習会修了 日本消化器外科学会専門医・消化器がん治療認定医
		杉井　沙織	主任医長	自治医大	平成24年	日本外科学会専門医　指導医講習会修了
		村田　竜平	主任医長	大阪大医	平成24年	日本外科学会専門医　日本消化器外科学会専門医・消化器がん治療認定医
		阪田　敏聖	主任医長	弘前大医	平成26年	日本外科学会専門医　日本消化器外科学会専門医・消化器がん治療認定医 日本透析医学会透析専門医　指導医講習会修了
整形外科	○	興村　慎一郎	主任部長	札幌医大	平成18年	日本整形外科学会専門医　関節鏡技術認定医
		成田　有子	主任部長	近畿大学医	平成18年	日本整形外科学会専門医　日本スポーツ協会公認スポーツドクター 指導医講習会修了
		勝又　顕	医長	札幌医科大	平成29年	日本整形外科学会専門医
産婦人科	○	鹿内　智史	主任医長	札幌医大	平成25年	日本産科婦人科学会専門医　日本産科婦人科内視鏡学会認定腹腔鏡技術認定医 指導医講習会修了　日本がん治療医認定機構がん治療認定医
		服部　理史	主任部長	北大医	平成3年	日本産科婦人科学会専門医　指導医講習会修了
泌尿器科	○	岡田　学	副院長	札幌医大	平成20年	日本泌尿器科学会専門医　日本泌尿器科内視鏡学会泌尿器科腹腔鏡技術認定医 指導医講習会修了
眼科	○	片岡　慶次	医長	北大医	平成29年	日本眼科学会認定眼科専門医
耳鼻咽喉科	○	大和田　築	医長	札幌医大	平成27年	日本耳鼻咽喉科学会専門医　日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医
麻酔科	○	佐藤　紀	主任部長	旭川医大	平成1年	日本麻酔科学会専門医・指導医　日本ペインクリニック学会専門医 指導医講習会修了
		大沼　淳	主任部長	旭川医大	平成10年	日本麻酔科学会麻酔科専門医　指導医講習会修了
		田中　清高	主任部長	札幌医大	平成18年	日本麻酔科学会麻酔科専門医　指導医講習会修了
病理診断科	○	三浦　一郎	検査主任部長	岐阜大医	平成5年	日本病理学会病理専門医　指導医講習会修了

○印は各科の指導責任者

プログラム管理運営体制

病院長の諮問機関として「研修管理委員会」を設置し、臨床研修医の選考、研修計画、研修状況等について審議、検討を行う。

当該委員会の委員長は、研修指定病院の「プログラム責任者」とし、副委員長、委員は病院長より委嘱された各科の研修実施責任者・総務課長で構成する。

1. 研修責任者「プログラム責任者」　研修管理委員長　青 柳　勇 人

2. 研修管理委員会

構 成 員　37名(委員長1名・委員36名)

役　　割
(1)臨床研修計画の作成
(2)指導体制の整備
(3)臨床研修医の募集，採用、配置
(4)臨床研修プログラムの作成
(5)臨床研修医の評価
(6)研修に関する具体的事項の決定・指示

3. 定　員　各年次 6 名とする。

4. 募集要領　毎年4月上旬に募集資格，募集人員、応募手続き等を記載した募集要綱を公表し、その内容に基づいて募集する。選考方法は応募者の書類審査、面接により行う。

(1)募集締切　8月 31日
(2)応募書類　臨床研修申込書・履歴書・医師免許証写、又は卒業見込証明書・健康診断書・小論文
(3)採用通知　マッチングの結果発表後本人に通知

5. 研修継続　研修をしている研修医の1年次から2年次への継続は、更新手続きを行うものとし、所定の書類を研修管理委員長に提出。これを委員会で審議のうえ、病院長が決定する。

6. 研修評価
(1)研修評価については、オンライン研修評価システム(PG-EPOC)で行う。
(2)研修管理評価委員会が到達目標の達成度を確認し研修修了の認定を行う。
(3)臨床研修修了者には、臨床研修修了証を交付する。

教育課程

研 修 概 要

当院における研修は、初期臨床研修（医師免許取得後1年目・2年目）を対象として、プライマリ・ケアを中心とした基礎的・基本的臨床能力を身につけることが目的とする。
プライマリ・ケアが確実に実行できる医療に必要な、知識技能・態度を身につけ、患者を全人的に診察し得るよう指導医のもとで研修を行う。

研 修 プ ロ グ ラ ム

【1年次】
必修
内科（消化器内科・循環器内科・総合診療科）：24週（各8週）
救急部門：12週　　日中の救急業務の研修を8週行い、2年間で4週相当の救急当直を20回以上行う。（4週まで麻酔科可）
外科・小児科・産婦人科：各4週
自由選択：4週

【2年次】
地域医療：4週　　北海道社会事業協会余市病院、北海道社会事業協会岩内病院
鹿追町国民健康保険病院、十勝いけだ地域医療センター
北海道家庭医療学センター関連医療機関のいずれかで研修。

精神科：4週　　医療法人社団博仁会大江病院、独立行政法人国立病院機構帯広病院、北海道立緑ヶ丘病院のいずれかで研修。

自由選択：44週　　内科（消化器内科、循環器内科、総合診療科、腫瘍内科）、小児科、外科、整形外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、病理診断科から選択。

希望により、帯広厚生病院、北斗病院、北海道大学病院、札幌医科大学附属病院、旭川医科大学病院、帯広中央病院、高木皮膚科診療所にて、計12週まで研修可能である。

研修ローテーション（例）

1年次

4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週
循環器内科		循環器内科		総合診療科		外科	救急科		小児科	麻酔科	産婦人科	泌尿器科

2年次

4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週
自由選択		精神科	地域研修	自由選択								

※救急研修は2年間で4週相当の救急当直20回以上を行う。

1年次

	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
研修医A	消		循		総		救		外	麻	産	小	整
研修医B	循		総		消		外	麻	救		小	産	泌

2年次

	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
研修医A	自由		地	精	自由								
研修医B	自由		精	地	自由								

※ 1年次・2年次ともローテーションの順番は個別調整

帯広協会病院　臨床研修規定

（総　　則）
第1条　帯広協会病院臨床研修に関する事項は、この規定の定めるところによる。
この規定の定めにないものについては、本会の規定を準用する。

第2条　研修医は、当院の臨床研修プログラムに基づき、包括的医療に必要な知識・技能を身につけるため、医療業務に従事し、初期的専門的医療技術を習得するための教育を受ける。

（研修プログラム）
第3条　臨床研修(研修医1年・2年目の者)の教育方法については、厚生労働省臨床研修到達目標に基づき、研修管理委員会が臨床研修プログラムの管理運営にあたり、各診療科において教育するものとする。

（臨床研修の運営組織）
第4条　臨床研修が適正かつ効果的に運営されるため、院長の諮問機関として、研修管理委員会を設置する。

（定　　員）
第5条　研修医の定員は、各年次　6　名とする。

（応募資格及び提出書類）
第6条　研修医の応募資格は、医師免許取得者2年次までの者、及び医師免許取得見込みの者とする。提出書類は、臨床研修申込書、履歴書、及び医師免許証(写)又は大学卒業(見込)証明書とする。

（選考方法）
第7条　選考方法は、応募者の提出書類、レポート(当院実習の振り返り)又は小論文(800字以内)及び面接により研修管理委員会が選考し決定する。

（身分及び待遇）
第8条　身分は、常勤研修医とし、その待遇は別途に定める。

（被　　服）
第9条　診察衣は、病院被服貸与規定を準用し、貸与する。

（服　　務）
第10条　研修医の勤務時間、休日及び服務規律に関する事項は、病院就業規則(準則)を準用する。

第11条　研修医の年限は、2年以内とし、1年ごとに更新するものとする。

（評　　価）
第12条　研修医の評価は各指導医が、PG-EPOCにて行う。

第13条　研修医が各指導医を評価するには、PG-EPOCにて行う。
但し、研修統括部門者以外は閲覧できない。

第14条　コメディカルが研修医を評価するには、所定の様式にて評価する。

（中断・再開）
第15条　本人の申し出を基に研修管理委員会にて討議を行い決定する。

（修　　了）
第16条　研修管理委員会にて各指導医及びプログラム責任者からの評価を基に決定する。

（補　　足）
第17条　研修医制度の円滑な運営を図るため、その他研修医に関する事項については、研修管理委員会において協議するものとする。

第18条　メンタルヘルスケア及び診療以外の相談窓口は、プログラム責任者、総務課長及び医療安全対策室長とする。

第19条　研修中は他医院でのアルバイト診療、1年次での単独診療は禁止とする。

第20条　研修中の医療行為に関する基準は別紙の通りとする。

第21条　当直明けの業務に関しては、当直医の体調不良を緩和し、早退又は業務免除等、適切に考慮する。

（付　　則）
この規定は、平成 15年 10月 27日から施行する。
平成 24年　4月　1日改定
平成 27年　2月　1日改定
平成 27年　4月　1日改定
平成 29年　2月 21日改定
平成 29年　4月　1日改定

帯広協会病院　研修管理委員会規定

（目　　的）
第1条　　臨床研修プログラムを適正かつ効果的に実施することを目的とし、臨床研修に関する基本的な問題を検討、協議するため、院長の諮問機関として院内に研修管理委員会を設置する。

（組　　織）
第2条　　研修管理委員会に委員長を置く。
委員長、副委員長、委員は、院長が任命する。

（構　　成）
第3条　　研修管理委員会は次に掲げる者で構成する。
(1)　臨床研修病院管理者
(2)　臨床研修プログラム責任者
(3)　協力型臨床研修病院の研修実施責任者
(4)　臨床研修協力施設の研修実施責任者
(5)　事務部の責任者
(6)　外部委員

（委員会の召集）
第4条　　研修管理委員会は委員長が召集し、その議長となる。

（委員会の任務）
第5条　　研修管理委員会は、次の事項について調査、立案、協議を行う。
(1)　臨床研修プログラムの作成
(2)　臨床研修計画の作成
(3)　指導体制の整備
(4)　臨床研修の評価（採用・中断・修了）
(5)　臨床研修医の募集，採用，配置
(6)　その他

（委員会の成立）
第6条　　委員の過半数の出席をもって成立する。

附則　本規定は 平成15年10月27日より施行する。
平成29年　2月21日より施行する。

総合診療科

1. 科の概要と研修目標

総合診療科は、平成 28 年 4 月に当院に新たに新設された診療科です。総合診療専門医は、主に地域を支える診療所や病院において、他の領域別専門医、一般の医師、歯科医師、医療や健康に関わるその他の職種などと連携し、地域の医療、介護、保健など様々な分野でリーダーシップを発揮しつつ、多様な医療サービスを包括的かつ柔軟に提供する医師と定義されています。そのような医療の実践と、総合診療専門医を目指す医師を育てる場となることを目指しています。

初期臨床研修では、医療面接や身体診察、よくある症候・疾患への初期対応といった基本的な技能、患者の問題を解決する手法、症例提示、患者を全人的に理解する姿勢を修得することなどを目標にしています。

2. 研修内容

上級医とともに入院患者、救急患者の診療を担当し、医療面接や身体診察、診断推論、患者や家族およびチームの他の医師や多職種とのコミュニケーションといった基本的な診療能力を身に付けてもらいます。また、生物心理社会モデルをもとに患者を理解する方法を学びます。定期的に指導医と振り返る時間を持ち、経験からの学びをさらに深め、研修終了後の自己学習（生涯学習）の習慣の基礎とします。

その他、各種カンファレンスに参加し、担当患者のプレゼンテーションを行うとともに、多職種との対話や協議を通じて、医療に限らず保健や福祉に関することについても学び、多職種連携、地域コミュニティケアについての洞察も深められる内容となっています。

3. 指導医

責任者　堀　　哲也（主任部長・副プログラム責任者）
　　堀　　みき（部長）
　　杉原　伸明（医長）
　　田尻　　巧（医長）

4. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	ミーティング 病棟業務	ミーティング 病棟業務	ミーティング 病棟業務	ミーティング 病棟業務	ミーティング 病棟業務グ	病棟業務 （第 1・3 週）
午後	症例検討 カンファレンス 病棟業務	病棟業務 病棟 カンファレンス	病棟業務	病棟業務	病棟カンファレンス	
備考	午前、午後に回診を行い、2～4 週間に 1 回、振り返りを行います。					

※1～2 回／週　外来研修を実施

消化器内科

1. 科の概要と研修目標

消化器疾患を中心に、肺炎や糖尿病などの一般内科疾患の診察を行っている。消化器内科全般の基礎知識、内視鏡検査をはじめとする、基本手技について学ぶ。

2. 研修内容

様々な腹部の愁訴をもった患者に対して、適切な問診と診察を行う。類推される疾患を念頭に適切な検査を行い、診断ならびに治療方針を決定する。眼瞼結膜の貧血、眼球結膜の黄染、羽ばたき振戦、クモ状血管腫、手掌紅斑、圧痛点、腹膜刺激症状、腹水、浮腫などの身体所見を経験する。

以下のような、頻度の高い疾患を経験する。
① 食道・胃・十二指腸疾患（食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎）
② 小腸・大腸疾患（イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻）
③ 胆嚢・胆管疾患（胆石、胆嚢炎、胆管炎）
④ 肝疾患（ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害）
⑤ 膵臓疾患（急性・慢性膵炎、膵癌）
⑥ 横隔膜・腹壁・腹膜（腹膜炎、急性腹症、ヘルニア）

経験できる検査・手技
上部・下部内視鏡検査、造影検査、腹部超音波検査、経鼻胃管挿入、腹腔穿刺、中心静脈確保など

3. 指導医

責任者　佐藤　修司　（主任部長）

伊志嶺　優　（主任医長）

4. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	上部内視鏡	採血、検査	外来診察・見学	外来診察・見学	上部内視鏡	上部内視鏡
午後	腹部超音波	病棟患者	下部内視鏡	病棟患者	腹部超音波	
備考	内科外科合同カンファレンス				内科カンファレンス	

循環器内科

一般目標
　循環器疾患における基礎知識・基本的診療技術の習得。

行動目標
1)病歴の聴取、診療録の記載、オーダリングなど医師としての基本的診療技術の習得。
2)循環器内科疾患を中心とした鑑別・診断・治療における診療技術やアセスメントする能力を習得する。
3)循環器内科領域における、可能な範囲での手技を習得する。
4)医療チームとしての自分の役割を理解し実践する。
5)患者・家族への適切な説明・指示・指導を実施する。
6)症例検討などの際の症例提示・討論を行う。

経験目標
　経験すべき検査・手技・治療
　(検査・手技)
1)血液検査を理解し、結果を説明できる。
2)心電図・運動負荷・心臓超音波検査などの生理学検査を理解し、結果を説明することができる。
3)胸部X線・CT・MRI・RIなどの画像検査を理解し、結果を説明することができる。
4)輸液管理を理解し、安全に実施することができる。
5)中心静脈カテーテル挿入の目的・方法・合併症などを理解し、安全に実践できる。
6)心臓カテーテル検査の目的・方法・合併症などを理解し、結果を考察した上で説明することができる。
　以上の項目やその他についても、指導医とともに十分に考察・検討をすることで内科的な診療技術を身に付ける。
　(治療)
1)循環器内科領域を中心とした薬物治療の意義を理解し、薬物の選択・用量調整を行うことができる。
2)カテーテル治療の適応、治療に用いられる医療器具(ステント・バルーン・血管内超音波・大動脈バルーンパンピングetc.)などの知識を習得する。
3)ペースメーカーの適応・手技についての知識を習得する。
4) 心不全含めた呼吸管理(気管内挿管・人工呼吸器)についての知識を習得する。
　以上の項目やその他についても、指導医とともに十分に考察・検討をすることで可能な範囲の治療・手技を身に付ける。

3. 指導医
　　責任者　吉田　一郎　(病院長・副プログラム責任者)
　　及川　達也　(主任部長)
　　西川　幹人　(主任部長)

4. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	新患外来/病棟業務	新患外来/病棟業務	新患外来/病棟業務	新患外来/病棟業務	新患外来/病棟業務	新患外来/病棟業務(第1・3週)
午後	心エコー・負荷検査/病棟業務	カテーテル検査・治療	心エコー・負荷検査/病棟業務	カテーテル検査・治療	アブレーション(1/月)	
16時～	カテーテルカファレンス		病棟症例カファレンス			

※これらの他、循環器疾患の救急診療など、適宜指導医のもとで診療に当たる。

麻酔科・救急部門

１．科の概要と研修目標

年間約１，４００件の手術麻酔と急性薬物中毒を主とした救急疾患、およびペインクリニックの診療を行っている。

麻酔科研修の主たる目的は、主に手術時の麻酔管理をとおして呼吸・循環動態を中心とした生命維持のための必要な知識および技術を修得するとともに、麻酔科医の麻酔関連領域における役割を理解する。

救急部門では基本的技術を身につけ、基本的な救急処置や管理方法・緊急性、重症度を正確に判断する能力を修得する。

２．学会認定施設名

日本麻酔科学会認定医研修施設

日本ペインクリニック学会指定研修施設

３．研修内容

研　修　内　容	備　考
指導医とともに麻酔症例を受け持ち、周術期管理を学ぶ 持続硬膜外法を用いた術後鎮痛法を学ぶ。 ペインクリニック外来を見学し疼痛疾患の特徴、治療手段を知る。 ※日中の救急業務を８週。 ※２次救急当番（日当直）による、救急患者の初期診察を２０回以上（４週相当）。	麻酔症例検討会　週１回 抄読会　週１回

４．指導医

責任者　佐藤　紀　（主任部長）

大沼　淳　（主任部長）

田中　清高　（主任部長）

小児科

1. 科の概要と研修目標

病院の置かれた状況より、おのずと提供が期待される医療に差があるが、当科の場合、十勝医療圏においてプライマリーケアから2次救急疾患まで広汎な疾患群を網羅することが期待されている。
それを実践する立場となると、必要とするスキルとして、幅広い疾患への理解、緩急をつけた医療の遂行、地域の多職種との連携等、かなり負担が大きいことは事実である。
しかし研修をする環境としては、小児医療の全く自然な姿というものを体験できる魅力的なやりがいのある環境である。
各個人の将来の目標によって小児科研修で目指すところは違ってくるであろうが、将来小児科を考えている研修医には、多くの子供たちと接することによって、人間の生活そのものへの共感を涵養する研修となることを期待したい。将来小児科以外を目指す研修医には、小児科診療の最低限のスキル取得と、小児科医の思考過程に触れる研修となって欲しいと思う。

2. 研修内容

①新生児、乳児、幼児、学童というように同じ小児であっても体格も違えば、精神機能も違う。各段階の正常小児像を理解する。またそのことより正常から逸脱した疾病状態への気づきを可能とする。
②小児全般に言えることとして、言語によるコミュニケーションが不十分である可能性を念頭に置く。特に乳児期までは言語は使えない。非言語によるコミュニケーションのスキルを体験する。また小児の代弁者である両親(特に母親)からの情報収集のスキルを会得するよう心掛ける。それは取りも直さず、多職種スタッフとの連携が重要であることを再確認するだろう。
③基本的な小児の処置を体験、可能であれば実践する。
④周産期医療の現場を体験し、正常新生児の適応過程を学習する。病的新生児の診療に上級医とともに参加する。
⑤机上の学習として
頻度の高い小児疾患につき一通りの知識(病態、症状、検査所見、治癒)を身に着ける。
受け持った疾患について掘り下げて考察し、現在の医学レベルを垣間見る。
抄読会にて英語論文をよみ小児領域のterminologyに親しくなる。

3. 指導医

責任者	青柳　勇人	(副院長・プログラム責任者)
	松岡　恵	(主任医長)
	伊藤　ゆたか	(主任医長)
	渡邊　さやか	(主任医長)
	木村　修平	(主任医長)
	遠藤　愛	(医長)

4. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	8:30～ミーティング 病棟	8:30～ミーティング 病棟	8:30～ミーティング 病棟	8:30～ミーティング 病棟	8:30～ミーティング 病棟	8:30～ミーティング 病棟
午後	病棟	病棟 予防接種 心エコー検査	乳児健診 病棟	病棟	病棟	
備考			17:00～抄読会 17:30～産科・ 小児科カンファランス			

※1～2回／週　外来研修を実施

産婦人科

1. 科の概要と研修目標

地域周産期母子医療センターとして、年間300件の分娩と婦人科全般（良性・悪性腫瘍、不妊症を含む）の診療を行っている。
女性特有の疾患による救急医療や、プライマリケアを研修する。妊娠、出産ならびに新生児医療に必要な基本知識を研修する。基本的な産婦人科診察法・検査・手技・治療法を学ぶ。

2. 研修内容

産科
スタッフと共に外来・入院患者の診察、超音波診断、胎児心拍モニタリング、分娩の管理、新生児の診察を学ぶ。
妊娠・分娩・産褥期の管理、新生児医療に必要な基礎知識とともに、育児に必要な母性とその育成を学ぶ。また、投薬や検査をする上での制限等についてその特殊性を理解する。
異常妊娠、異常分娩の対処、帝王切開の適応について学ぶ。

婦人科
スタッフと共に外来・入院患者の診察、病棟回診で診察法・治療法を学ぶ。
開腹手術、腹腔鏡手術の適応を学び、助手に入り実際の手術手技を学ぶ。
女性の加齢と性周期に伴うホルモン環境の変化を理解し、それらの失調に起因する疾患に関する系統的診断と治療を学ぶ。

3. 指導医

責任者　　鹿内　智史　（主任医長）
　　服部　理史　（主任部長）

4. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	外来又は病棟	外来又は病棟	外来又は病棟	外来又は病棟	外来又は病棟	
午後	外来 病棟カンファレンス	手術	外来 手術カンファレンス 小児科合同 カンファレンス	手術	手術	
備考						

外　科

1．科の概要と研修目標

一般外科（乳腺、甲状腺、鼠径ヘルニアなど）消化器外科（消化管腫瘍、肝胆膵腫瘍、胆石症など）の診療を行なっている。

研修目標は診断、手術、術前術後管理などに関した基本的な知識と技術を習得すること。

また患者、家族との対応や他の医療スタッフとの連携を学ぶ。

2．学会認定施設名

日本外科学会外科専門医制度修練施設

日本消化器外科専門医制度修練施設　　日本乳癌学会専門医関連施設

3．研修内容

研　修　内　容	備　考
患者診察 入院患者の病歴聴取、診察、診断を学ぶ。 検査 造影検査、内視鏡検査、画像診断検査の手技、診断を学ぶ。 手術 手術の助手、術者となり手術を行う。 患者管理 手術適応、輸液、薬剤使用を学び、周術期の管理を行なう。	手術症例検討会（内科･外科）　週1回 外科症例検討会　週1回 十勝外科集談会　年4回 ※1～2回／週　外来研修を実施

4．指導医

責任者　本間　友樹　（主任部長）
橋本　卓　（診療部長）
杉井　沙織　（主任医長）
村田　竜平　（主任医長）
阪田　敏聖　（主任医長）
阿部　厚憲　（名誉院長）

整形外科

1．科の概要と研修目標

地域センター病院の整形外科であり、外傷から変性疾患まで、新生児から超高齢者まで多彩な患者を診療する。他施設からの紹介患者や、救急当番日に搬入される患者も多い。手術内容では骨折手術が多い。当院は急性期であるが、高齢者の大腿骨骨折などでは、術後患者を慢性期リハビリテーションまで加療することもある。　研修では、他科専門医になっても役に立つ整形外科的外傷のプライマリケア、高齢者の慢性疾患への対応、及び整形外科手術を通して皮膚・筋肉・骨への感覚を身に付けてもらう。又、スポーツ専門外来を併設し、プロ、アマのスポーツ選手が多く来院し診療にあたっている。

2．学会認定施設名

日本整形外科学会専門医制度研修施設

3．研修内容

研　修　内　容	備　考	
●病棟では指導医のもとで診察、処置、治療計画立案 治療経過の評価を行う ●外来では指導医の診療を見学する ●手術では指導医のもとで手術の助手をする ●リハビリテーション回診で理学療法士と意見交換をする ●症例検討会で他の医師が経験した症例から学ぶ	リハビリテーション回診 症例検討会 抄読会	週１回 週１回 週１回

4．指導医

責任者　興村　慎一郎　（主任部長）
　　成田　　有子　（主任部長）
　　勝又　　顕　　（医長）

泌尿器科

1．科の概要と研修目標

泌尿器科領域全般の診療を行っている。前立腺肥大症、神経因膀胱、尿管結石、尿路感染症などの良性疾患はもちろんのこと、腎細胞癌、尿路上皮癌（腎盂、尿管、膀胱）、前立腺癌などの悪性疾患に対する診療のニーズが高く、積極的に対応している。

研修目標は、プライマリーケアに必要な泌尿器科疾患の診断、治療の基本的事項を習得する。

2．学会認定施設名

日本泌尿器科学会専門医関連教育施設

日本がん治療認定機構認定研修施設

3．研修内容

研　修　内　容	備　考
外来：患者の心理に配慮した適切な問診ができる能力を身につける。診断、治療を適切にできる能力を養う。直腸診、検尿、導尿、経直腸的エコー、膀胱鏡、膀胱内圧測定、尿路造影検査の実施。 入院：入院患者に対して全身、局所管理が適切に行える能力を養う。周術期管理ができる能力を養う。補液、抗菌剤、検査の適切な指示を主治医として行う。 手術：基本的手術手技を習得し、執刀医あるいは助手として手術に参加する。生検、陰嚢内手術など小手術の執刀、開腹、閉腹など基本手技の実施および助手として、糸結び、鈎引きを行う。	手術症例検討会　週1回 病棟カンファレンス　週1回 日本泌尿器科学会北海道地方会への参加

4．指導責任者・指導医

岡田　　学　（副院長）

眼　科

1．科の概要と研修目標

3次医療圏十勝圏域（人口35万人）では総合病院眼科は少なく地域センター病院としての役割を認識しながら眼科診療を行っています。眼鏡合わせ、結膜炎、ものもらいの治療などのプライマリケアから急性緑内障発作、眼球破裂などの緊急手術まで幅広く対応しなければなりません。重症全身合併症を有するもの、ステロイドパルス療法を必要とする疾患や重症感染症の症例を入院下で治療を行っています。

眼科研修においてはプライマリな疾患の対応からさまざまな重症疾患までの診断・治療の実際に触れていただき眼科診療についての基本知識を習得することを目的としています。

2．研修内容

①眼科の診断に必要な対光反応・眼球運動・視力検査・屈折検査・眼圧測定・角膜内皮細胞検査・眼底カメラ撮影・光干渉断層計（OCT）検査、視野検査などの基本的検査を習得する。
②細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、隅角鏡検査などのテクニックを要する検査を習得する。
③睫毛抜去、結膜・角膜異物除去、鼻涙管洗浄、麦粒腫切開などの外来小手術を習得する。
④網膜光凝固術、YAGレーザー切開術など機器を用いた外来手術を習得する。
⑤手術室における清潔野と手術に伴う眼感染症の発生頻度、予防策など基本的な事項について確認し白内障などの手術助手を務める。
⑥緊急眼疾患に迅速に対応できるよう日頃から外来⇔病棟⇔手術室の各業種での業務の流れを意識し、最小限で最大限の的確な指示を出す能力を習得する。

3．指導医

責任者　　片岡　慶次　（医長）

4．週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来
午後	眼科特殊検査 外来小手術	手術	眼科特殊検査 外来小手術	手術	眼科特殊検査 外来小手術	
備考	病棟回診は午前の外来の前と午後の診療終了後に行います。					

耳鼻咽喉科

1．科の概要と研修目標

耳鼻咽喉科一般特に良性疾患を中心に広く診療を行なっている。

研修目標は、一般的耳鼻科臨床の理解と研修レベルの耳鼻科手術の修得である。

2．学会認定施設名

3．研修内容

研　修　内　容	備　考
外来　一般外来、鼻出血、滲出性中耳炎等の処置を修得する。 検査　外来での鼻腔咽頭喉頭ファイバー等の検査を修得する 手術　基本的手術手技を修得する。助手として手術を行なう。	

4．指導責任者

大和田　築　（医長）

病理診断科

1．科の概要と研修目標

病理診断は、将来どの診療科へ進むにしても必ず関わりをもつ分野です。病理診断科での研修では、臨床との連携を通じ良質な医療を実施していくために、病理診断業務に関する基礎的な知識を修得するとともに臨床科やメディカルスタッフと協働する姿勢を学びます。当科は道内で数少ない複数の常勤病理専門医が所属する研修施設で2016年新設であり、最新で安全対策も万全の設備を保有しています。臨床科と症例情報を共有し診断に当たるとともに、近隣医療施設とも連携して業務を行っています。

2．研修内容

◎外科系臨床医には病理診断の知識は必須の研修内容です。よって病理診断科単独としてだけでなく、臨床科と併行しての研修も可能です。例として外科で担当する患者さんの手術検体を自身で検索し診断する、あるいは皮膚科志望なので関連臓器を見たい、等興味のある分野に集中して標本を観察することも可能です。臨床科と協力し要望にお応えします。

◎さまざまな病理診断業務を実体験することが可能です。

〔病理組織診断〕　検体の安全な取り扱いを知る。臨床診断、所見を理解し肉眼診断を学ぶ。適切な切り出し、標本作成の方法を理解し実践する。特殊染色、免疫組織化学の意味合いを理解する。

〔術中迅速診断〕　肉眼診断による標本作成から報告までを実践する。

〔病理解剖〕　症例の治療経過を理解し全身を見て死に至った病態生理を解き明かすautopsy pathologyの方法と考え方を学ぶ。見学のみではなく解剖補助、執刀が可能です。

〔細胞診断〕　胸腹水、尿、喀痰、婦人科材料等での基本的な細胞像を観察する。

3．指導責任者・指導医

三浦　一郎　（臨床検査科主任部長）

4．週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	9:10～病理科ミーティング 手術検体の肉眼観察・切り出し標本作成					
午後	組織病理診断（HE・特殊染色・免疫組織化学）					
備考	迅速診断（随時）　　病理解剖（随時）					

腫瘍内科

1. 科の概要と研修目標

[科の概要] 2020年度新設。がんの化学療法・支持療法・緩和ケア・がんの終末期の患者の訪問診療を行っています。 扱うがん種は、消化器・乳腺・肺・泌尿器・婦人科・原発不明・肉腫など小児以外の固形がん全般。 2つ以上のがんを持つ場合や、精神疾患や認知症合併のがん、透析など身体合併症がある人のがん治療など困難ケースの対応をすることも多いです。 副作用を軽くするための支持療法やメンタルケア、外見変化や就労問題といったサバイバーシップのケアも院内のがんサポートチームの一員として行っています。 入院・訪問診療での在宅での緩和ケアも連続して行っており、がん治療と緩和ケアの統合、入院と自宅のスムーズな移行ができることも当科の特徴です。

[研修目標] 医学的側面だけでなく、心理・社会面も考慮した全人的な医療をがん治療の分野でどのように行っているのか知り、治療選択や必要な社会資源を選択できること。

2. 研修内容 （こんなことが経験できます）

- 各種がんの化学療法を中心とした治療方針の決定と実際の治療や支持療法。（術前・術後・転移再発症例の化学療法など。どのように説明し意思決定支援をし、どのように治療マネジメントをしていくか。）
- がん患者と家族の緩和ケア、終末期ケア、グリーフケア。
- 訪問診療・在宅看取り。（在宅を支える地域の訪問看護やケアマネなどとの連携）
- がんサポートチームの多職種チームで支えるがん治療やケア。

3. 指導医

責任者　　杉山　絢子 （主任部長／がん薬物療法専門医・指導医）

4. 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	病棟／外来	病棟／外来	がんサポートチーム回診	病棟／外来	●相談室カンファ 病棟／外来	病棟／外来／訪問
午後	●6F病棟カンファ ●婦人科カンファ ●キャンサーボード	がんサポート外来・病棟・訪問	病棟 ●がんサポートチームカンファ	がんサポート外来・病棟・訪問	がんサポート外来・病棟・訪問	
備考	朝と夕　病棟回診					

精神科

◆必修科　2年次に4週以上研修。

下記の臨床研修協力病院において、各指導責任者の下で研修を実施する。

●医療法人社団博仁会　大江病院　（154床）

帯広市西20条南2丁目5－3

●独立行政法人　国立病院機構帯広病院　353床の内、精神科（100床）

帯広市西18条北2丁目16

●北海道立緑ヶ丘病院　（168床）

河東郡音更町緑ヶ丘1番地

1．研修の目的

精神障害者や精神疾患に対して、誤解・偏見・差別なく診療するために知識を深め、適切な態度・習慣を身につけ、基本的な技術を獲得することである。

2．研修の目標

①精神科面接の技能を学習する
②現象・病歴・家族歴等詳細に情報を集める技能を修得する
③精神症状の捉え方の基本を修得する
④精神疾患に対する初期対応と治療を学ぶ
⑤指導医の下で症例を受け持ち、診断（操作的診断法を含む）、状態像の把握と重症度客観的評価法を修得する。
⑥精神科医療の法規・制度を学習する
⑦多職種連携によるチーム医療を学ぶ

地域医療

◆協力施設にて４週以上研修。（下記の医療機関中いずれかで研修）

概要と研修目標

医師として、地域住民の健康保持及び増進に全人的に対応するために、地域医療（総合診療・在宅診療・外来診療）を理解し実践できる能力を身につける。

●北海道家庭医療学センター関連施設
更別村国保診療所・上川医療センター・北星ファミリークリニック・
栄町ファミリークリニック・寿都診療所・本輪西ファミリークリニック・
若草ファミリークリニック

●鹿追町国民健康保健病院　　河東郡鹿追町東町１－３８
病床数５０床（一般）

●社会福祉法人　北海道社会事業協会余市病院　余市郡余市町黒川町１９－１
病床数１７２床（一般６０床、障害６０床、療養型５２床）

●社会福祉法人　北海道社会事業協会岩内病院　岩内郡岩内町高台２０９－２
病床数１８６床（一般９６床、療養型９０床）

●十勝いけだ地域医療センター　　中川郡池田町西２条５丁目２５番地
病床数６０床（一般６０床）

【協力型病院】

◆自由選択科研修で希望があれば研修可能である。

●社団医療法人 北斗病院　　帯広市稲田町基線７番５
　病床数２６７床
　脳神経外科、循環器科、心臓血管外科、消化器科、整形外科、リウマチ科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、形成外科、神経内科、外科、救急科、小児科

●帯広厚生病院　　帯広市西１４条南１０丁目１
　病床数６５１床
　呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、神経内科、総合診療科、外科、整形外科、麻酔科、脳神経外科、心臓血管外科、形成外科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科、放射線科、泌尿器科、眼科、皮膚科、精神科、病理診断科

●札幌医科大学附属病院　　札幌市中央区南１条西１６丁目

●北海道大学病院　　札幌市北区１４条西５丁目

●旭川医科大学病院　　旭川市緑が丘東２条１丁目１番１号

【協力施設】

◆自由選択科研修で希望があれば研修可能である。

● 帯広中央病院

1．科の概要と研修目標

十勝2次医療圏全域より、肺がん、COPD、喘息、肺炎等呼吸器感染症まで呼吸器疾患領域全般を担当医3名で診療している。その他一般内科診療、訪問診察も行っている。
呼吸器疾患の診断で特に重要な咳の鑑別や画像診断を中心に外来診療やカンファレンスに参加し呼吸器疾患領域の特徴を把握することを目標とする。

2．研修内容

①外来診療
呼吸器内科・・・呼吸器内科外来診療について
・見学、模擬診察、実診察まで
在宅・訪問診療・・・訪問診察・訪問看護・訪問リハ
※希望があれば、見学、同行

②入院診療　疾患別入院診療の流れについて
・実務指導

③診断・検査手技
血液検査、画像診断（X-P、CT、Echo）、呼吸器系検査（肺機能、呼吸抵抗）、内視鏡検査（上部消化管、気管支）

3．指導医

責任者　菅原　好孝　（管理者）

【協力施設】

◆自由選択科研修で希望があれば研修可能である。

● 医療法人社団　高木皮膚科診療所

一般目標

皮膚科の臨床研修の目的は、皮疹の見方を通して全身への影響を捉え、診断能力を高めることにある。

行動目標

1) 患者の病歴聴取と記録ができる。
2) 皮膚科疾患を中心とした基本的診察方を実施し記載できる。
3) 皮膚科新患を中心とした基本的検査・治療手技を理解し、実施できる。
4) 医療チームとしての役割を理解し、円滑なコミュニケーションをとることができる。
5) 患者・家族への適切な指示と指導ができる。
6) 症例検討などで症例呈示と討論ができる。

経験目標

1) 経験すべき検査・手技・治療
真菌検査、パッチテスト、皮膚生検術および皮膚病理組織診断

2) 経験すべき症状・病態・疾患
湿疹・皮膚炎・乾癬などの炎症性角化症、水疱、紅斑症、細菌性皮膚疾患、ウィルス性皮膚疾患、真菌感染症、膠原病、アレルギー性皮膚疾患、皮膚良悪性腫瘍、リンパ腫、熱傷、褥瘡等。

指導医

責任者　高橋　英俊（院長）

週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来	外来	外来	外来	外来
午後	外来	外来	外来	休診	外来

初期臨床研修医の医療行為に関する基準

帯広協会病院　研修管理委員会

初期臨床研修医の医療行為に関する基準とレベル

レベル１；指導医による指導を受けた後、単独で行って良い医療行為

レベル２；実施前あるいは実施後に指導医の確認を得る必要のある医療行為

レベル３；指導医の立ち会いのもとで行うことを原則とするが、初期臨床研修医の技能向上および症例経験数を踏まえ、担当指導医が個々の研修医の能力評価を行った上で、単独での施行を認めることが出きる医療行為

レベル４；指導医の立ち会いを必須とする医療行為
初期臨床研修医が単独で行ってはならない

運用に当たって

各診療科での運用上、帯広協会病院としての基準を厳格化することはあっても緩和することは行わない。
変更を行った診療科は、変更後の一覧表を臨床研修委員会に提出。

研修医の医療行為 1

	診察　ほか	処方	注射
レベル 1	医療面接 全身の視診・聴打診など 基本的な身体診察（泌尿器・生殖器診察，小児を除く） 直腸診 耳鏡・鼻鏡・検眼鏡による診察	定期処方の継続 臨時処方の継続	皮内注射 抗生剤テスト 皮下注射 筋肉注射 静脈注射 末梢点滴 末梢血管確保
レベル 2	診療録の作成 紹介状の作成 診断書の作成 治療食の指示	定期処方の変更 新たな処方（定期・臨時） 高カロリー輸液の処方 酸素療法の処方 経腸栄養新規処方	輸血 関節内注射
レベル 3	内診	危険性の高い薬剤の処方 向精神薬 抗悪性腫瘍剤 心血管作動薬 抗不整脈薬 抗凝固薬 インスリン 麻薬処方	危険性の高い薬剤の注射 向精神薬 抗悪性腫瘍剤 心血管作動薬 抗不整脈薬 抗凝固薬
レベル 4	死亡診断書の作成 重要な病状説明 informed consent 取得		動脈注射

研修医の医療行為２

	検査	処置
レベル１	**正常範囲の明確な検査の指示・判断** 一般尿検査，便検査，血液型判定，交差適合試験，血液・生化学検査，免疫血清学的検査，細菌学的検査，など **部門依頼検査の指示** 心電図，呼吸機能検査，単純Ｘ線検査，脳波など **超音波検査の実施**	静脈採血 皮膚消毒・包帯ガーゼ交換 気道内吸引 抜糸 ドレーン抜去 皮下の止血 包帯法 緊急時の心肺蘇生術
レベル２	**検査結果の判読・判断** 心電図，単純Ｘ線検査，呼吸機能検査，脳波，超音波検査結果，動脈血ガス分析結果など **説明同意書の必要な検査の指示** ＣＴ検査，ＭＲＩ検査，ＲＩ検査，内視鏡検査他の侵襲的な検査 **筋電図，神経伝導速度** **内分泌負荷試験**	動脈血採血 創傷処置、軽度の外傷・熱傷の処置 浸潤麻酔 皮下の膿瘍切開・排膿 皮膚縫合 尿カテーテル挿入（新生児・未熟児は除く） ドレーン・チューブ類の管理 経鼻胃管挿入（減圧用）
レベル３	**侵襲的検査の実施** 負荷心電図検査、負荷心エコー検査、 直腸鏡・肛門鏡 消化管造影 胸腔・腹腔試験穿刺 骨髄穿刺 腰椎穿刺 など	侵襲的処置 小児の静脈採血 動脈ライン留置 経鼻胃管留置（栄養・投薬目的） 気管カニューレ交換 胸腔・腹腔穿刺排液、ドレーン留置 髄腔内・胸腹腔内抗癌剤注入 人工呼吸器の管理 透析の管理 マスクとバッグによる用手的換気 ラリンゲアルマスクの挿入
レベル４	**危険性の高い侵襲的な検査** 胸腔鏡・腹腔鏡検査 気管支鏡、膀胱鏡 消化管内視鏡検査・治療 経食道心エコー 心・血管カテーテル検査 肝生検、筋生検・神経生検 **発達・知能・心理テストの解釈**	**危険性の高い侵襲的な処置** 気管挿管 ＩＡＢＰ，ＰＣＰＳ　など 中心静脈カテーテルの挿入 小児の動脈穿刺 吸入麻酔、脊髄麻酔、硬膜外麻酔 深部の止血・縫合 深部の膿瘍切開・排膿 超音波誘導下の穿刺